

調査相談(レファレンス)事例紹介 12



Question

志賀直哉の碑が群馬県内にあると聞きました。
どのような碑で、どこにあるのですか？



Answer

志賀直哉の碑（文学碑）は、現在、前橋市富士見町赤城山の赤城神社境内にあります（昭和 45（1970）年の建設当初は、赤城山大洞大沼湖畔）。この碑には、志賀の短編作品の中でも名作と言われる『焚火』の最後の一節が刻まれています。その理由は『焚火』が、志賀が赤城に住んでいる時に書き始められた作品だからです。

志賀は、大正 4（1915）年 5 月から 9 月まで赤城大洞の山小屋に住んでいました。当時新婚であった妻・康子の神経衰弱の療養のためでしたが、それは赤城での生活ですっかり良くなったそうです。山小屋を建設する前に滞在していた旅館の主人は、近代スキーの先駆者として有名な猪谷六合雄（後に日本人初の冬季オリンピックメダリストとなる猪谷千春の父）で、山小屋建設の世話もしています。

なお、『焚火』の他に赤城での生活に基づく作品は、『赤城山にて或日』や『馬と木賊』、『嵐の日』、『ある男・其姉の死』等があります。

志賀は“文学碑嫌い”として有名だったそうで、全国にたった 3 基しか志賀の文学碑は存在しません。赤城の他は、尾道と城崎。尾道は『暗夜行路』の舞台であり、志賀自身も住んでいたことのある街です。城崎は大正 2（1913）年に電車にはねられて負傷した志賀が療養した温泉地であり、この地で『城の崎にて』を執筆しています。志賀は「今後文学碑のようなものは一切不可」という遺言を残したため、志賀が亡くなる一年前に建てられた赤城の碑が最後の碑となっています。



参考文献

書名	責任表示	出版社	出版年	資料コード
① 志賀直哉先生と赤城	志賀直哉先生文学碑建設委員会／編		1970	07974322
② 記念碑散歩	谷口吉郎／編集	文藝春秋	1979	00704502
③ 群馬の文学碑めぐり	田島儀一／著		2003	08831141
④ 志賀直哉 上	本多秋五／著	岩波書店	1990	00189357
⑤ 文豪が愛した百名山	中川博樹／著 泉久恵／著	東京新聞出版局	2008	12898011

今回ご紹介した他にも調査相談（レファレンス）事例をホームページに多数ご紹介しています。

【群馬県立図書館ホームページ＞調査相談＞調査相談事例・郷土人物データベース】

お問い合わせ：群馬県立図書館 〒371-0017 前橋市日吉町 1 丁目 9-1 電話：027-231-3008